

『花を訪ねて： 水芭蕉』

鬼無里奥裾花自然園報告（令和 元年 5 月 15 日～16 日）

長野市の西北の「鬼無里奥裾花自然園」には、約 80 万株といわれる水芭蕉の大群落がある。10 連休前の 4 月 26 日に鬼無里観光振興会に電話で開花状況を聞いたら、「現在開花したばかりなので、5 月中旬位がよいだろう」とのことだった。ビスターリの 5 月の例会で皆さんにお声をかけ、花の開花時期に合わせて 5 月 18 日（土）～19 日（日）に決めた。ここは朝早く長野駅前発の路線バスに 2 時間かかるので、長野駅近辺に前泊しておくことが必要なのだ。ところが私の調査不足で 18 日は土曜日のため、駅近辺のホテルは満室で取れない。止む無く 15 日（水）～16 日（木）に日程を変更して、再度お誘いしたが参加される方は伊藤さんお一人だった。それで私と二人で出掛けた。

前泊の長野市までは、伊藤さんが京王バスの“特別切符”を入手してくれたので、有難く利用させて頂いた。料金はなんと¥1,500 です。極く限定した数のみ発売していたのであろう、後刻アルピコ営業所で訊いたら、東京～長野間「平日¥2,900、週末休日¥3,900」とか。一方 JR の「大人の休日倶楽部」（3 割引）では¥5,590（指定席）です。ただ、所要時間だけは差がある。バスでは 3 時間 40 分（渋滞なしの時間）、JR：1 時間 25 分（確実）だ。私は大いに伊藤さんに感謝した次第です。

伊藤さんと私では出発時刻が 1 時間ずれて、私は“バスタ新宿”から 7 時 55 分発に乗った。車輛は横 3 列、前後 10 席くらいで前後も少し広くとってあり、右窓側の 1 列席はカーテン付き、夜行でもゆったり乗れるような構造だった。

気象情報では段々よくなり、晴れも十分期待できそうになった。当日朝には薄雲はあったが、よくなりそう。バスは約 20 人の乗客を乗せ定刻発車、「中野坂上」で乗客一人を乗せて、関越道にはいる。段々雲が薄くなってきて晴れてきた。妙義山の尾根が恐竜の背中を思わせる。「横川 SA」で 25 分トイレ休憩があり、先へ進む、高速道出口で通行料金を見たら¥8,240（後で伊藤さんに訊いたら、そちらの乗客は 5 人ほどと、これでは通行料金+ガソリン代で消えてしまうのでは、とバス会社の経営者が気の毒になった次第）。11 時 45 分に長野駅前に到着した。

昼近いのでまず腹ごしらえ、駅ビルの名店街の「草笛」という蕎麦屋に入る。20 人位待っていたが中は広いので、やはり長野なら“戸隠蕎麦”を食べるべきだろうと入った訳である。

「善光寺」まで 2km ほどあるのだ。昼過ぎてかんかん照りになっていて、汗をかきながらお寺に向かって少し登りになった道を歩く。中央は車道で両側に広い歩道がある。草花を植えた鉢が吊るされたり、木製の大型灯籠が並ぶ。「大門」を過ぎるとようやく“参道”の色彩が濃くなってきた。「大門」直ぐ左手に郵便局があったが、古風な雰囲気を残したままの建物であった。右手には“・・坊”と名付けた宿坊が並んでいる。今でもお参りに人ばかりではなく、一般の人でも宿泊できるのだろう。

「仁王門」は大正 7 年に再建され、高村光雲と弟子の米原雲海作の仁王像が立つが、阿形（向かって左）と吽形（右側）の像が通常配置と逆なのだそう。全く気にしないので判らなかったが。また

背面には光雲、雲海作の「三宝荒神像」と「三面大黒天像」が安置されている。

14 時頃「仁王門」を入った所でばったり、伊藤さんと会った。ここからは二人で話しながら歩く。「六地藏」、「濡れ仏」を通り、「山門（三門）」に至る。国宝の「本堂」は素晴らしい。1707 年に再建されて東日本で最大の寺院であり、間口 24m に対して奥行はなんと 54m もあると。屋根は“総檜皮葺”で二重屋根は重厚である。内部に入ると「おびんずる様」の像がある。お釈迦様の弟子だが健康の仏様で、その部位を撫ぜると苦しみから逃れられるというので、身体中いたるところがツルツルだ。私も呆けて認知症にならないようにと、頭部をしっかりと撫でてきたが、もっと多額の御喜捨をしないと駄目ですというのかな。「内陣参拝」、「戒壇巡り」をしようかと考えたが、登山靴を脱がなければいけないので止めにした。

本堂の裏手に回ると「高尾灯籠」なるものが立っている、楼主の三浦四郎兵衛が立てたとか。また前の方に戻ってきて、「濡れ仏」を改めて見る。1722 年作の像で“重文”、子供を守る延命地藏尊だという。隣の「六地藏」は地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、天の六道からお救い下さるという有難いお地藏さんです。

14 時半に「善光寺」さんを出て参道をゆっくり下って 15 時 10 分長野駅についたが、バス停がなかなか見つからない、鬼無里奥裾花自然園行きは 7 番乗り場ということは分かったが、その 7 番がない。駅前バス停には 1 番～6 番が並んでるが次がない！駅内にある観光案内所に行き、やっとその場所が分かった。しかし問題発生、貰った時刻表に帰りに乗る予定にしていた 14 時 00 分発のバスがないのだ。案内所の人が駅前の 7 番バス停の前に、アルピコ営業所があるからそこで訊ねなさいと教えてくれたので、早速行った。営業所で訊いたがやはり削減されている。戻りは「奥裾花自然園」を 14 時 45 分に出て、途中「旅の駅 鬼無里」で 40 分待ったのち、乗り換えて 17 時 12 分の長野駅到着が最も早い時間である。当然その後の列車も影響する。ここで小生の反省点：事前の調査は旧の時刻表では駄目だということ。バス乗り場探しからとんだことが判明してしまった。

15 時 45 分、「ホテルセレクトイン長野」にチェックインして、汗を流し暫く休憩することにした。今日はずっと伊藤さんが頑張ったお陰で、強い日差しによりしっかり汗をかいた。18 時に外に出て、伊藤さんと駅前のお店で“ノンアルコール”で乾杯しながら、反省会というより今後のビスターリはどのような方向に進むかまた進むべきかなど熱のはいったお話をした。特に私からは行事へ参加する方が少ないので、なんとかしたい旨お話しした。差し当たり何処かからパクってくるのが早いのはと。

2 日目の 16 日は朝から爽やかな快晴だ。6 時半からホテルのサービスで出されたパン、いなり寿司、飲み物などを食べて、7 時少し前にホテルを出発する。数分で駅前のアルピコ営業所に着き、早速“往復乗車券”を購入する。帰りが“乗り継ぎ”になり、この往復券がないと、割引が無くなる上に別々切符になるため、かなり失費が増えるのだ。7 時 20 分発のバスには、全部で 8 名ほどのお客だけ。

来たバスに乗り込むと年配のおじさんが車掌然として乗っている。脇のプラ籠の中に時刻表、奥裾花自然園のパンフレット、バスの運行手配表などを持っていた。ということは、観光案内所と園入口間のシャトルバスの取り仕切りをするために向かうのだろう。前に座ったお二人さん、男性が「スパ

ツツを持って来た？」女性「そんなの持ってこなかったわ」。そう言えば私も持ってこなかった。というか考えもしなかったな。こりゃ失敗かな、まあいいや。

バスは善光寺参道を北上して、大門前で左折し国道 406 号線に入る。道は裾花川沿いに、川を行ったり来たりしながら少しずつ登って行くが、道は街から外れるにつれ段々狭くなる。トンネルも多く、裾花ダムもあった。バスは 8 時 20 分に「旅の道 鬼無里」に到着、10 分休憩後出発し直ぐに右折して、いよいよ山の中へ入って行く。9 時に観光案内所に着き、ここから自家用車で来た 7 人が乗り込む。5 分ほどでバスの終点：「鬼無里奥裾花自然園入口」に到着。ここから約 800m 歩くが、途中雪を被った「戸隠西岳連峰」が望める絶好の見晴場があった。また左隅の方に「八方睨み」が見えた。道の途中では八重の山櫻、オオカメノキ、エンレイソウ、キクザキイチゲ、ニリンソウ、などの花に会った。

9 時 35 分「平成の森広場」実質上の入口に到着した。幸か不幸かバス本数が減ってしまったため、かなり時間が取れるので写真を撮りながらゆっくり廻ることとする。各コースのあちこちに径 15cm 位の柱に位置番号と地名を表した案内板 (No.2~No.33) が立っている。分かり易く親切だ。それと径 2cm、長さ 30cm 位の鉄パイプ及びハンマー又は鉄棒が下がっていて、通る人は熊に合図するようになっている。入って直ぐ天然記念物の「モリアオカエル」が生息する「ひょうたん池」が現れる。10 時、直ぐに「今池湿原」を見下ろす展望地に出る。かなり広い湿地に大群落の水芭蕉が咲いている。丁度満開だ。雪は残っているが、多くはない。左廻りに湿原の反対側へ向かう。湿地帯に掛けた木道の上からだ、低い目線で撮影できるので違うイメージの写真が撮れる。水芭蕉の間に鮮やかな黄色の「ネコノメソウ」が咲いていた。一方空の方は雲が出たり入ったりだが、日差しは十分ある。10 時 25 分、小さなお社があるので「弁天島」と称する半島に登る。振り返ると若い女性がスパッツを付けている、雪もほとんど無いのにどうして付けるのだろうか疑問に思ったら、伊藤さん曰く「あれは格好を付けたいからです」と。なるほど納得。

ここから西側斜面を登り、「こうみ平湿原」に行く。10 時 45 分に到着。こちらは高木が多く日差しが弱まるので、まだ雪が多い。しかしスパッツは不要だろう。ここも周回するため向う側の小高い展望スポットに行く。ゆるい下りでも滑って転ばないように足元注意だ。こちらは「今池湿原」より木に囲まれていて、薄暗い雰囲気である。今池より狭いこともあり、水芭蕉の感激は減ってしまった。

我々はここから少し登って、「吉池」(海拔：1,280m) (11 時 10 分着) へ行く。正に静かというか、少し寂しい位、周囲を木に囲まれた盆池になっている。正面の少し水に浸かった位置に樹齢 400 年という「トチノキ」が生えていた。樹高 30m とこの森で最高で最長老らしい。ここも「モリアオガエル」と「クロサンショウウオ」の生息地だそうだ。「吉池」から登って行くと、道脇に綺麗な緑色をした体長 5cm ほどの「モリアオガエル」がいた

ブナの樹林の中を、若干の上り下りを繰り返して「展望広場」へ向かって歩く。「展望広場」に 11 時 35 分着。丁度すり鉢の北の端で、前は約 100m ほど急激に落ち込んでいた。眼前に裾花川の源流である「堂津岳」(1927m) が白い雪を半分被って聳えていた。開けた眺めを楽しみながら昼食を摂る。この標識柱も熊の爪とぎに使われていた。すぐ傍にタムシバの花を見つけた。

12時05分に出発、左側は切り立った崖、右側はすり鉢の内側で緩やかなブナ林になる。この周回コースのあちこちに200年以上の高齢巨木が印されている。新しいパンフレットには「熊に注意」を追加した。熊にしてみれば、本来自分たちの領域に人間が無断で入り込んできたのであるから、共存するためには我々側が「熊さん、お庭にちょっと入らせてもらいますよ」という謙虚さが必要だろう。

「ブナ」、「ミズナラ」、「シナノキ」などの老齢巨木を探しながら歩き、途中から「ブナ林コース」へ入った。お椀の内部は巨木で日が差しにくいので、まだ雪が多い。お椀の底へ下る途中2度雪を踏み抜いてしまった。最後はまた登り返して12時45分に「こうみ平湿原」の前に出た。

帰りのバスの時間にはまだ十分あるので、再度「今池湿原」を回って帰ることにした。13時20分に「平成の森広場」実質入口に到着。下りバス時刻までまだ1時間25分ある！それで観光案内所まで歩いて下ることにした。途中小さな池があり、水中に白い“しらたま”のような「クロサンショウウオ」の卵群を見かけた。こちらはまだ孵化には早いらしい。

14時に観光案内所前に到着した。例のおじさんがハンドマイクを持って「バスが出るよー」とやっていた。お店の前の台の上には貸し長靴が並べてある。これはお客を待つというより、使った後中を乾かすために置いているのだろうか。20台位の自家用車があり、車で来た人は園の内部がよく分からない筈で、「長靴の方が良いですよ」と言われれば借りるだろうなと思った。

14時45分に「奥裾花自然園」入口を出発したバスは観光案内所前を55分に出発する。疲れていたのが鬼無里まで居眠りした。「旅の駅」に着いたら下されてしまった。40分の待ち時間である。ここには農協の出店一軒と普通のお土産屋兼食堂が一軒あるだけで、なかを見ても目ぼしいものは見つからなかった。仕方なく外の石のベンチで日向ぼっこする。半分うとうとしたころバスがやってきて乗車、16時10分、長野駅へ向かう。事故・渋滞はなく17時10分長野駅に着いた。

みどりの窓口に行き帰りの列車を探す。17時30分発の「はくたか」もあったが、17時55分発の「かがやき」にした。この列車は長野を出ると次は大宮で、その分早いのだ。駅ビル内でお土産、弁当を調達して慌てずに列車に乗れた。そして車内で解散となった。

お陰様で2日間とも天候に恵まれ、水芭蕉を十分堪能することができた。私にとっては半分雪を被った「西戸隠連峰」を真近に見ることができたのは、望外の幸せであった。「鬼無里奥裾花自然園」の水芭蕉は総数80万株あり、日本有数の規模を誇るというが、私としては「尾瀬」の方が開放的な景観であり、燧ヶ岳、至仏山、尾瀬沼、尾瀬ヶ原との組み合わせは素晴らしいと考える。しかし皆さん「百聞は一見にしかず」と言いますから、是非一度ここにも見にきてください。

以上 陽田

